



～若き心 集まるところ～

No.12

茅ヶ崎市立鶴が台中学校長 力石 裕司

毎月お届けしてきた学校だよりとしては今年度最後です。保護者の皆さんや地域の方々に少しでも本校の教育活動について発信できればという思いでした。一年間、お付き合いいただきありがとうございました！

進路決定に向けて

1月の私立高校等の推薦入試に始まり、2月27日には公立高校入学者選抜の合格発表があり、3年生の4月からの進路先が決まってくるところです。神奈川県公立高校では、一昨年度から「インターネット出願システム」が導入されています。1、2年生の保護者の皆様も、インターネット等で神奈川県公立高等学校の選抜制度や各公立・私立高校等の特色など、早い段階で調べてお子様と話題にしてみてください。



3月・・・旅立ちの季節です

今年度も残すところわずかとなり、11日には第58回卒業証書授与式を行います。3年生にとって残り僅かの台中生活になり、通い慣れた台中の正門を通る日も数えるほどとなりました。3年生はこの3年間、台中でどのような思い出を積み重ねてきたでしょうか。3年前の入学式から、毎日の授業や部活動、体育大会や合唱コンクール、野外スクールや修学旅行・・・。色々な場面で思い起こされると思います。家族に支えられながら、仲間と先生たちと共に過ごしたこの3年間の経験を自信に変え、4月からの新たなステージに旅立ってほしいと願うばかりです。



校長として、日頃3年生とは大きな関りはありませんが、先月末には、各クラスで最初で最後の授業をやらせてもらう機会がありました。私自身の中学生の頃から様々な寄り道をしながら、教師になり今に至る過程での様々な出会いについて触れ、20歳の時の私の人生を変えた“ある出会い”を紹介しました。人は生きていく中で数多くの“出会い”があります。気づかないうちにそれらの“出会い”から何らかの影響を受けています。

卒業生にはこれまでの“出会い”への感謝を忘れず、これからの様々な“出会い”を大切にしながら生きていってほしいというメッセージを送りました。卒業式では、この授業の続きとして最後のメッセージを送ります。

卒業式は英語で、Graduation Ceremony ですが、アメリカの大学の卒業式はフォーマルな言い方で Commencement ともいいます。Commencement には「始まり」という意味があります。

卒業は一つの区切り・終わりですが、同時に新しい生活への第一歩でもあるという考え方です。

卒業生の保護者の皆様には、15年前の我が子が生まれた時の何にも代え難い喜びを思い返しなが、15年間の成長とこれからの人生のスタート地点に力強く立つ生徒たちを温かく見守っていただければと思います。



“台中挨拶キャンペーン”にえぼし麻呂が来ました！

2月24日から3日間、生徒会本部の朝の挨拶キャンペーンに、茅ヶ崎市のオリジナルキャラクターである“えぼし麻呂”に来てもらいました。生徒会本部役員、生徒たちと一緒に正門に立って登校する生徒たちを出迎えました。道行く地域の人たちもいつもと違う光景に驚いたり、笑顔になったり・・・

恥ずかしそうに通り過ぎてしまう台中生もいましたが、えぼし麻呂とハイタッチをして、笑顔で朝を迎える生徒も多くいました。27日は香川小学校へ行き小学生と交流しました。台中だけでなく、この地域が、挨拶が飛び交い、誰もが安心して過ごせるようになればと思い企画したものです。これを機に、台中の“挨拶日本一”への道のりが近づいてくるといいなと思っています！



1年生インクルーシブ教育講演会

2月19日、1年生を対象に茅ヶ崎市教育委員会の指導主事を講師として「インクルーシブ教育講演会」を開催しました。昨年度は1、2年生を対象として開催しましたので、今の2、3年生も内容を思い出してくれると嬉しいです。

講演では、「好きなおにぎりの具は？」との問いから、鮭・明太子・ツナマヨ・・・色々な答えがあり、そのことだけでもみんな同じではなく、何が普通で、何が変だということもないという話から始まりました。生徒たちにわかりやすい例を挙げていただきながら、「インクルーシブとは？」「インクルーシブな学校って？」を生徒たちが身近なところからイメージできるような内容でした。講師は、台中の「学校だより」を事前に目を通し、12月の人権講座、集会などでの多様性に関する私から生徒へのメッセージや「互いに認め合い、他者への思いやりが求められる変な学校をつくろう！」という投げかけなど踏まえて、様々な視点から話をしてくれました。



単発の講演会ではなく、これまでの学びや経験とつなぎ合わせながら、生徒たちがこれまで以上に「相手を思いやり、相手を理解しようとし、自分も相手も大切にすること」が育まれる大きな機会になればいいなと思いながら私も聞いていました。この講演会をきっかけに、多くの生徒がこれまでの自分の考えや他者との関わりなどを見つめ直し、少しずつ「インクルーシブ」な視点での言葉が聞かれたり行動が見られたりするような学校になることを期待しています。

みつけた！**台中生**！

I found something nice about DAICHU-SEI!!!



台中グラウンドにドローンが飛びました！

2月中旬、ある日の放課後、2年生のある生徒がドローンを披露してくれました。生徒が持参したドローンにはカメラが搭載され、ゴーグルを装着して、狭いところを通ったり、校舎の裏側のテニスコートのほうまで飛ばしたり・・・その性能と生徒の操縦技術に見ていた先生方も驚いていました。

きっかけは、その生徒から、「ドローンをやっていて、是非広いところで飛ばしてみたい」という申し出でした。前回は体育館でしたが、今回はより広いところでやらせてあげたいとグラウンドでの飛行を許可しました。とは言っても施設管理者である校長が許可してもドローンは飛行させてはいけないそうで、国土交通省のオンラインシステムで申請をする必要があるそうです。その生徒は操縦だけでなく、そのような申請手続きにも詳しく、当日も先生たちからの色々な質問に答えてくれました。その時の生徒の表情から、学校の勉強だけでなく（それも大事ですが・・・）、自分が興味のあることに没頭し、調べたり、学んだりすることで人は輝くことができるのだらうなと感じました。ドローンなんて想像もできなかった時代に育った世代ですが、お小遣いを貯めて買ったラジコン（中学生は知ら

ないかな）にわくわくしていた小さい頃を思い出させてくれた時間になりました！



教頭先生のつぶやき・・・

先日、地域の会合に出席した際、他の学校の校長先生から素敵なお話を聞くことができました。小学校低学年（1～2年生と思われる）児童が横断歩道に差しかけたところ、車が停車し横断歩道を渡るまで待っていたそうです。すると、渡りきった児童が振り返り、車の運転手に対して深々とお辞儀をしたそうです。そういった場面が複数回見られたそうです。「あいさつの街鶴が台」を掲げ、あいさつ運動を行っています。心に触れるあいさつや立ち振る舞いがこれからも地域で増えていってくれると嬉しいです。こういった姿が見られると心が笑顔になりますね。